

## 日本産ツヤハナバチ (Ceratina) 属の生態? . 青森県における4種の営巣場所

著者	根来 尚
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	5
ページ	15-17
発行年	1983-03-20
URL	<a href="http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=480">http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=480</a>

日本産ツヤハナバチ (*Ceratina*) 属の生態  
IV. 青森県における4種の営巣場所\*

根来 尚

富山市科学文化センター

Ecological Studies of *Ceratina* Bees in Japan  
IV. Nesting Habits of Four Species in Aomori Prefecture

Hisashi NEGORO

Toyama Science Museum

Nesting habits of *C. japonica*, *C. flavipes*, *C. megastigmata* and *C. esakii* were investigated in Aomori Prefecture. The interspecific relation among four species seems to be governed by differential use of substrates linked with body size and nesting site segregation between two medium species (*flavipes* and *megastigmata*).

はじめに

筆者は、先に、石川県内の *Ceratina* 属の分布とその要因について論じ、海拔500m前後を界として、山地側に *C. megastigmata* と *C. esakii* が、平地側に *C. flavipes* と *C. iwatai* が分布し、両側に *C. japonica* が分布し、*C. megastigmata* と *C. flavipes* および *C. esakii* と *C. iwatai* の分離には体の大きさが1つの大きな要因となっていることを示した。また、それぞれ分布が重なる所もあり、そこでは営巣場所の違いがあるのではないかと述べておいた(根来1980 a・b)。また福井県から報告された結果によれば、上記2種どうしの分布の重なりは広く見られ、営巣場所の調査の必要性が指摘されている(田埜1981)。

今回、青森県での調査で、*C. megastigmata* と *C. flavipes* の組合せについて、営巣場所が異なるという考えを支持する結果を得たので報告する。

東北大学付属浅虫臨海実験所の方々には、調査にさいしてお世話になった。御礼申しあ

げる。

調査地・調査方法

**青森県浅虫**：浅虫臨海実験所構内外の林地、畑地、周辺の林地。海拔5m~30m。1976年5月11日・12日、1980年7月17日・19日、1982年6月17日に調査。(図1-1)

**青森県岩木山山麓**：岩木山神社周辺から山頂に向う登山道ぞいの林地、畑地。海拔180m~550m。1976年5月14日、1980年7月20日・21日、1982年6月17日・18日に調査。(図1-2)

**青森県萱野高原**：車道ぞいおよびナ林中。海拔450m~670m。1976年5月13日、1980年7月18日、1982年6月19日に調査。(図1-3)

なお、青森県八甲田山田茂菴岳、海拔1280m~1320m、で1980年7月18日に調査したが、*Ceratina* 属の営巣は見い出せなかった。

調査は、各調査地の道路ぞい、小径ぞいに歩き、またできるだけ林中にも入って、*Ceratina* 属の営巣枝を発見するようにつとめ、それを、林外、林縁、林中に分けて記録するよ

\* 富山市科学文化センター研究業績第26号

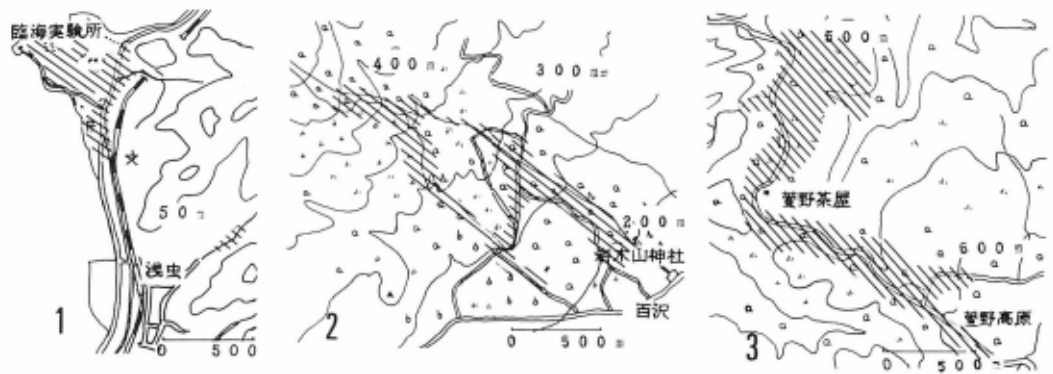


図1 調査地 1. 浅虫 2. 岩木山山麓 3. 萱野高原  
斜線部分が調査範囲

うにして行った。

#### 結果および考察

浅虫では *C. japonica*, *C. flavipes*, *C. megastigmata* の3種が、岩木山山麓ではそれに *C. esakii* を加えた4種が、萱野高原では *C. flavipes* を除く3種がそれぞれ調査範囲全域から得られた。

*C. iwatai* は今回の調査では得られなかった。

*C. megastigmata* は、過去の記録では主に

山地で得られ、一部海拔170 m付近でも得られていたが (MAETA & KATAYAMA 1978), 今回海岸部でも見られ、少なくとも青森県では、山地とは限らず、森林があれば平地でも見られるものと思われる。

各種の営巣基は、*C. japonica* でタニウツギ、モミジイチゴ、ニワトコ、キブシ、ススキであり、*C. flavipes* でススキ、タニウツギ、*C. megastigmata* でタニウツギ、モミジイチゴ、ニワトコ、クロモジ、キブシ、*C. esakii* でヤ

表1 各調査地で得られた各種の営巣枝数と髄直径の平均

j: *C. japonica*, f: *C. flavipes*, m: *C. megastigmata*, e: *C. esakii*

		林 外		林 緑		林 中		合 計	
浅 虫	j	11(本)	4.4(mm)	29	5.0	12	5.9	52	5.1
	f	15	3.7	9	3.5	—	—	24	3.6
	m	—	—	9	3.7	13	3.5	22	3.6
	e	—	—	—	—	—	—	—	—
岩木山山麓	j	5	4.5	17	3.7	3	4.3	25	3.9
	f	17	4.3	5	3.3	—	—	22	4.1
	m	—	—	6	3.5	12	4.0	18	3.8
	e	—	—	8	2.8	3	3.0	11	2.9
萱野高原	j	6	4.0	12	4.4	6	4.2	24	4.3
	f	—	—	—	—	—	—	—	—
	m	—	—	—	—	7	3.4	7	3.4
	e	—	—	—	—	3	2.3	3	2.3
合 計	j	22	4.4	58	4.6	21	5.2	101	4.7
	f	32	4.0	14	3.4	—	—	46	3.8
	m	—	—	15	3.6	32	3.7	47	3.7
	e	—	—	8	2.8	6	2.7	14	2.8

マブキ、タニウツギ、モミジイチゴであった。

各々の調査地での各種の営巣場所およびそれらの営巣枝の髄直径を表1に示した。

全般的に見て、*C. japonica*の営巣は林中から林外まで見られ、林縁部で一番多く見られた。*C. flavipes*は林中では見られず、林外と林縁部で見られ、林外で多く見られた。*C. megastigmata*では林外では見られず、林中・林縁部で見られた。*C. esakii*は*C. megastigmata*と同様林中・林縁部で見られた。

互いに体の大きさの以た *C. flavipes* と *C. megastigmata* の営巣場所は上に述べた通り、前者がより林外側に、後者がより林中側にえらばれている。

今回の調査結果と、白山山麓部の調査結果(根来 1980b)とをあわせて見れば、*C. flavipes*の分布は、標高やそれにともなった気候等によって決められるというよりは、人為の入った open land があるかどうかによって強く影響されるものと思われる。

各種の営巣枝の柔らかな髄の直径は、表1に示した通り、各種の体の大きさにしたがって、大きな種から小さな種の順により細くなっている。

これらのことは、*Ceratina*属は体の大きさにしたがって太さの異なる営巣枝を選び、体の大きさの似たものは互いに住み場所を違えているという考え(根来1980 a・b)を支持するものと思われる。

## 文 献

- MAETA, Y. & KATAYAMA E. 1978. Life history and nesting habits of a small carpenter bee, *Ceratina megastigmata* (Hymenoptera, Anthophoridae). Bull. Tohoku Nat. Agri. Exp. Stat., 58: 231—260.
- 根来尚, 1980 a. 日本産ツヤハナバチ (*Ceratina*) 属の生態, I. 金沢大学構内における *Ceratina* 属3種の生態, 日生態会誌, 30: 259—265.
- . 1980 b. 日本産ツヤハナバチ (*Ceratina*) 属の生態, II. 石川県内における分布および医王山における3種の生態, 日生態会誌, 30: 267—272.
- 田塾正, 1981. 福井県産ツヤハナバチ属の分布について, 福井県教育研究所研究紀要, 81: 95—98.